No. 138 民俗

がなまた えのきづ アストラス アステング アスティス アス アスティス アスティ

八代市東陽町河俣と熊本市富合町榎津は、江戸時代後期から昭和初期にかけて、漆器の産地として知られていました。写真1は河俣塗の提重箱です。小箱の裏に「根元/川俣/肥後八代/金十郎」(写真2)と印が捺されています。写真3は榎津塗の膳です。裏底に「肥後/榎津/原芳平/仕入」の文字が捺されています。このような形の膳は県内ではソウワと呼ばれています。

河俣塗・榎津塗に共通する特徴は、桧や杉材の膳や総輪台、 重箱、弁当箱などの指物が主な製品であること、春慶塗の技法 が用いられること、製品は軽くて頑丈で、装飾が少なくて素朴 なものが多いこと、分業体制をとらず、指物と春慶塗両方の技 法を伝承してきたこと、製品に産地と職人名を印した角印が捺 されていること、などがあげられます。

春慶塗とは漆塗りの技法のひとつです。木地に弁柄やクチナシなどで赤や黄色の着色をし、その上に透明な漆を塗って仕上げ、木目の美しさを生かしています。堺の漆職人春慶が応永年間(1394~1428)に創始したと伝えられます。この技法が県内にいつ頃、どのように伝わったのかは分かっていませんが、江戸時代後期には、河俣や榎津を中心に盛んに行われ、ここから技術



写真3 ソウワ膳 八代市鏡町 製作年不明 春慶塗・杉

スチックなど

他の素材にお

(迫田久美子)



写 **具 1 提重箱** 八代市鏡町 製作年不明 春慶塗・桧



写真 2 印拡大

されるなどで伝承者が途絶えてしまい、現在、 両地区とも漆器生産は行われていません。

メールアドレス

ا مادا



熊本県

松橋収蔵庫

〒869-0524 熊本県宇城市松橋町豊福1695 TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302

HPアドレス http://www.pref.kumamoto.jp/site/shuuzouko/

shuuzouko kumamoto@yahoo.co.jp

最新号及びバックナンバーは、熊本県松橋収蔵庫のホームページに掲載しています。 是非ご覧ください。 編集・発行 熊本県松橋収蔵庫 宇城市松橋町豊福1695 Tel 0964-34-3301 2013 年12月15日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.26

V0L. 7 - 3

みんなで楽しく学んでいます 熊本県松橋収蔵庫

ミュージアムパートナーズクラブ

松橋収蔵庫ミュージアムパートナーズクラブは、松橋収蔵庫で行われた講座で学ばれて さらに詳しく学んでみたいと思われた方や、自然や文化に興味を持たれた方が自主的にク ラブを設立して、松橋収蔵庫のスタッフと一緒に様々な活動に取り組んでいるものです。

毎月第三火曜日には、交流支援クラブ主催で松橋収蔵庫職員によるミニ講座を開いています。毎回様々なテーマの話が聞けます。他にも、草木染めの会・植物の会(雁回山)・植物の会(はなしのぶ班)・地学研究会・野鳥研究会・阿蘇火山研究会・松橋地域史調査クラブ・阿蘇文化研究会が、自分たちの活動テーマに沿った活動をしています。会員の皆様も毎回の活動を楽しみに参加されています。

これらの会に入って一緒に活動してみませんか。詳しくは、松橋収蔵庫にお問い合わせ下さい。



草木染めの会



阿蘇火山調査会

松橋収蔵庫の収蔵棟増築工事が始まりました

県民の皆様方からお預かりしている大切な資料を、しっかりした保存ができるように、収蔵棟を増築します。新しい収蔵棟は、空調設備を入れ資料の劣化を少なくする工夫がなされます。

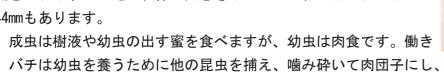
現在、増築工事に伴い収蔵庫の資料を学習室や展示室に 一時保管をしているため、企画展が開催できない状態で皆 様方にはご迷惑をおかけしています。平成26年4月には、 新しい収蔵棟も完成し企画展も開催されます。

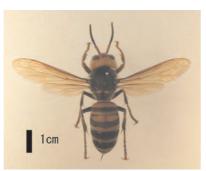
なお、従来業務は行っております。



オオスズメバチ Vespa mandarinia japonica ハチ目スズメバチ科

オオスズメバチは、インドから東アジアにかけて分布する世界最大のスズメバチです。4亜種からなり、日本産亜種 japonicaは北海道から九州、種子島、屋久島まで分布しています。女王を中心とした社会性をもち、土中の空洞や樹洞などに大きな巣をつくります。働きバチはすべて雌で、体の大きさは26~38mm、女王バチでは40~44mmもあります。





オオスズメバチ

巣に持ち帰ります。このとき活躍するのがオオスズメバチのもつ発達した大腮です。この大腮は、 他のスズメバチ類では固くて食べられないコガネムシなどの甲虫類をも噛み砕くことができます。

次に腹部に注目してみると、その末端にハチ類にとって最大の武器である毒針がみられます。外敵から巣を守るための手段として使用する毒針ですが、これはメスの産卵管が変化したものだといわれています。したがって、秋、交尾のために生まれる雄バチは毒針を持っていません。

写真の標本は2000年10月に松橋町久具で採集されたものです。攻撃的な性格で、強力な毒をもつゆえに近づいて見ることが難しいオオスズメバチですが、このように標本にすることで機能的なその体のつくりをじっくりと観察することができます。(小原舞)



オオスズメパチ 正面

No. 134 明治三十五年陸軍特別大演習紀念絵葉書 (熊本市辛島家資料)

本史料は、明治35年(1902)11月に熊本で行われた陸軍特別大演習を記念して作られた絵葉書です。 熊本通信協会の発行で、絵柄には、熊本城、水前寺公園、日清戦争の戦勝記念碑(現在の熊本市辛島公園にあったもの)、演習の様子(写真 1)などの写真が使われています。熊本郵便電信局内熊本通信協会会長の加藤順次郎から当時の熊本市長辛島格に進呈として郵送されたものです。

陸軍特別大演習は陸軍が天皇の統監のもとに行っ た軍事演習です。熊本では昭和6年(1931)にも行



(写真1)絵葉書

われました。明治35年の演習では、宇土、松橋、飽託郡部田村(演習の際に御幸村に改称、現在 のたる は熊本市)などで明治天皇が統監する演習が行われました。天皇が演習を統監した野立地には記

念碑が建てられており、松橋方面での演習の記念碑は松橋収蔵庫の敷地内に建っています。(写真2)

天皇の行幸がある陸軍特別大演習では、演習地付近の道路整備が行われるなど、県下を上げての一大イベントでした。そうした中でこのような絵葉書が発行されました。史料として絵葉書を見ることで、当時の人々がどのような出来事に興味関心を持ち目を向けていたのかを知ることができます。(松本晃世)



写真 2)駐蹕之碑

No. 135 ね ネナシカズラ*Cuscuta japonica* Choisy(ネナシカズラ科)

夏になると、山野の草や低い木を覆い尽くすように巻き付く、 黄色がかった針金のような植物を目にすることがあります。これ はネナシカズラという寄生植物で、葉は鱗片状に退化し、つる状 の黄色の茎がよく目立ちます。この茎が他の植物に巻き付き、巻 き付いた部分から寄生根を食い込ませて栄養をもらって成長しま す。写真の標本は、シリブカガシの枝にとりついていたネナシカ ズラです。夏から秋にかけて、写真のように白く小さな花を穂状 につけます。種子は地面に落ちて発芽します。発芽してすぐはま だ根がありますが、宿主となる植物に絡みつくと寄生根を宿主に

食い込ませ、自分の根は枯れてなくなってしまいます。まさに根無葛です。この標本は、ミュージアムパートナーズクラブ「植物の会」が収集し、熊本県松橋収蔵庫へ納めていただいた調査成果の一つです。「植物の会」は、



ネナシカズラ標本

熊本市と宇土市の境にある雁回山の植生調査を行っています。松橋収蔵庫は、ミュージアムパートナーズクラブを始め、さまざまな県民参加の博物館活動を展開し、熊本県の「今」の自然を記録する活動も進めています。(前田哲弥)

No. 136 貨幣石 Nummulites

ネナシカズラ花

貨幣石というのは硬貨の形をした化石で、原生生物の有孔虫の一種であり、両凸レンズ 状や円盤状の石灰質の殻を持っています。径 1 cm程度の大きさですが、大きなものは径 1 O cmにも及びます。

貨幣石が生息していたのは、約5300万~約300万年前(新生代古第三紀暁新世末~漸新世前期)の暖かい海であり、アフリカ、ヨーロッパを中心に東は中近東、インド、太平洋、西はカリブ海に広がっていました。このように、限られた時代に広く数多く生息していたことから、古第三紀の示準化石となっています。

日本では、沖縄本島、西表島、小笠原の母島と天草からのみ産出されます。写真の標本は、天草市河浦町で採取された古第三紀始新世の砂岩と礫岩で、岩石の中に写真のような貨幣石の断面が見られます。

天草市河浦町宮野河内の貨幣石産地は、昭和39年に県指定の天然記念物となっています。 (唐田志乃)



貨幣石



貨幣石の化石が入った岩石

No. 143 地 学

イノセラムス Inoceramus

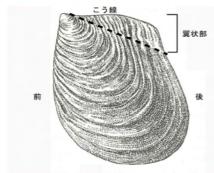
イノセラムスは、約2億年前のジュラ紀に出現、白亜紀中期に世界的に繁栄し、約6500万年前の白亜紀末に絶滅した二枚貝です。日本でも、北海道や天草をはじめ、全国各地の地層から産出

します。イノセラムスの産出する範囲が広いのは、幼時に流木などに付着して浮遊生活をし、その後は海底で固着生活をしていたからだと考えられています。また、イノセラムスは、形態変化は速いという特徴が有り、詳細な時代区分や遠隔地の地層との対比に用いられる示準化石として重要な役割を持っています。

天草上島で採取された2種類のイノセラムスを写真に示

しています。写真1はイノセラムス アマクセンシスで、日本でしか産出していません。全体的にほぼ五角形や縦長の長方形に近い形をしています。靭帯があり二枚の殻がくっついている部分(こう線)が直線的で後ろに長く、扁平な翼状部が広く発達しているのが特徴です。表面は同心円状の肋が発達しています。肋は翼状部まで続いており、こう線とほぼ直角で交わっています。

写真2はイノセラムス ヒゴエンシスです。全体的に縦長い楕円形あるいは丸みのある長方形をしています。翼状部は持たず、表面は同心円状の 助があります。波形にうねってでこぼこした逆V 形の肋が発達しているのがこの種の特徴です。



イノセラムスの部位説明



写真1 イノセラムス アマクセンシス 産地:上天草市龍ヶ岳町樋島



写真2 イノセラムス ヒゴエンシス 産地:上天草市姫戸町小島



熊本県

松橋収蔵庫

〒869-0524 熊本県宇城市松橋町豊福1695 TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302

HPアドレス http://www.pref.kumamoto.jp/site/shuuzouko/ メールアドレス shuuzouko kumamoto@yahoo.co.jp

最新号及びバックナンバーは、熊本県松橋収蔵庫のホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

編集·発行 熊本県松橋収蔵庫 宇城市松橋町豊福1695 IL 0964-34-3301

2014年3月15日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.27

VOL. 7-4

熊本県松橋収蔵庫新収蔵棟ができました

松橋収蔵庫は、旧運転免許試験場の建物を利用し、歴史、民俗、動物、植物、地学の標本や資料を整理・保存しています。このたび、県民の皆様の寄贈により収蔵物が増えてきたことと、湿度・温度管理が十分にできず資料の劣化が心配されたことから、新しい収蔵棟を松橋収蔵庫の今の建物の南側に建設しました。新しい建物は、床面積およそ400㎡の平屋建てで、空調設備も整えており、動物・植物の標本・資料が保管されます。従来の建物の2階も、収蔵区間は窓をガラスからアルミに入れ替え、外からの光が入らないようにするとともに、空調設備を整備し、皆様から寄贈いただいた標本・資料をより大切に保管することができるようになりました。

松橋収蔵庫では、収蔵標本や収蔵資料による調査研究や、県内各地での展示に活用できるよう更なる収蔵資料の調査研究を進めて参ります。

新収蔵棟のオープンを記念し、新収蔵棟の内側も見学できるバックヤードツアーを4月26日(土)に行います。当日13時30分受付14時開始、人数制限はありません。



新収蔵棟の外観



2階改修部分(収蔵物移動前)

企画展「ジオパーク・火山・化石・防災」が始まります

5月10日は、地質の日です。地質の日関連企画として、 県内の博物館、大学、地質調査業協会などが合同で、4月 1日より松橋収蔵庫において企画展示を行います。県内の 地質関係の見所や、そこで見られる岩石や化石を展示し、 ジオパーク・火山・化石等の楽しみ方を紹介します。ま た、熊本平野の地下の様子や、洪水、高潮などの被害写真 や、各地域の防災マップを展示、減災および防災について 考えていきます。5月10日(土)には、化石レプリカ作り や展示説明会などのイベントも行われます。



昨年度の展示より(センターコートにて)

茶碗籠は、洗った後の茶碗や皿などを伏せておく 水切り用の籠です。編み目を大きく作り、風通しを 良くしてあります。県内ではワンカゴ、ワンジョウ ケなどの名で呼ばれます。食器類の水切りのほか、 野菜や果物の保存籠や、脱衣籠などにも利用されま した。

写真の茶碗籠は、阿蘇郡南小国町で使われていた ものです。チャワンメゴと呼ばれていました。オカ メザサという竹を割らずに、6本束ねたもの4組で 底を作り、3本ずつに分けて、大きな菱四つ目に編 んでいます。茶碗籠は、オカメザサやシダで作られ たものが広く使われていました。オカメザサは県内



ではカンノンザサ、メゴザサなどと呼ばれています。細くしなやかで曲げに強く、水気に強い素材 です。秋に採集したものが強度があり、カビも発生しにくいとされます。シダもまた、加工しやす く水気に強い素材です。主にコシダが利用されていたようです。県内ではシダ類をヘゴということ から、シダで編んだ茶碗籠はヘゴ籠とも呼ばれていました。

今ではプラスチック製が一般的となった多くの暮らしの道具も、かつては様々な自然素材が使わ れていました。(迫田久美子)

オオシャミセンガイLingula adamsi Dall, 1873 (シャミセンガイ科)

シャミセンガイ類はとても変わった形をしています。内蔵は2枚の殻に包まれ扁平で、殻から 肉柄と呼ばれる太い腕のようなものを伸ばしており、その先端は砂や泥が大量に付着して膨らん でいます。その姿が三味線に似ていることからこの名がつきました。殻をもつため軟体動物の二 枚貝のように見えますが、貝とは異なる腕足動物というグループに属します。干潟や潮下帯の砂 泥底に、殻を上に、肉柄を下にした直立の状態で砂に潜って生活しています。



シャミセンガイ類は古生代(約5億4200万年~約2億5100万年前)の 海で世界的に繁栄していた動物群で、熊本県八代市にある約4億2000万 年前の地層から化石が発見されています。現在では日本や東南アジアの 限られた地域にしか生息していません。日本には現在4種のシャミセン ガイ類が確認されており、熊本にはミドリシャミセンガイとオオシャミ センガイの2種類が生息しています。オオシャミセンガイは、殻長が70 mmと現生するシャミセンガイ類のなかで世界最大で、有明海の限られた 地域に生息しています。写真の標本は昭和58年(1983年)以前に佐賀県 にて採集されたものです。熊本県内では過去に熊本市西区河内町や上天 草市松島町などで採集された記録がありますが、近年では1989年に荒尾 干潟で確認されて以降は記録がありません。そのため、絶滅の可能性が 1cm 極めて高いとして、レッドデータブックくまもと2009で絶滅危惧 I A 類 に選定されています。(小原舞)

(森下功旧蔵資料)

本史料は、江戸時代に下益城郡河江手永で働いていた役人の給与を記録 したものです。表紙には、「文政九年(1826)三月調」とあり、加えて文 久2年(1862)の補記があります。手永は、郡と村の中間に当たる熊本藩 の行政区画で、惣庄屋を長とし、その指揮下で庄屋が手永内の村々の行政 を担いました。河江手永は現在の宇城市松橋町と小川町の地域にあり、江 戸時代末には42の町村がありました。

本史料は、まず最初に、河江手永内各村の庄屋、藩有山林の取締や植林 を行う山口、手永の役所である会所で事務を担う会所役人など、手永の諸 役人の給与が氏名と共に記され、各役での合計と全体の総計(約450石) が出されています。更に、これらの役人を統轄する立場にある手永三役の 惣庄屋・山支配役・郡代手附横目などの給与も記録されています。

給与の内容を詳しく見てみると、惣庄屋や庄屋には給米などと共に筆紙 墨代が費目に挙げられ計上されています。手永や村々の行政を担う惣庄屋 や庄屋は、職務上様々な行政文書の作成が必要であったため経費としての 筆紙墨代が与えられました。本史料もそうした行政文書の一つです。この ように惣庄屋や庄屋が作成した文書は、当時の地域社会を知るための貴重 な史料となっています。(松本晃世)





タシロラン*Epipogium roseum* (D.Don) Lindl. (ラン科)



タシロランは、日本、中国、熱帯アジア、オセアニア、西ア フリカと広い範囲に分布するラン科植物です。日本では関東南 部以南に生育し、分布の北限となっています。レッドデータブ ックくまもと2009では絶滅危惧 I B類(EN)、環境省のレッ ドデータブックでは準絶滅危惧に選定されています。タシロラ ンという和名は、日本で最初に発見した植物学者の田代善太郎 の名を記念したものです。 かいけいじょう

この植物は、地下にある塊茎状の部分で菌根菌と呼ばれる菌 類と共生し、菌根菌のつくる栄養を使って成長します。このよ うな生活をすることから、菌寄生植物とも呼ばれます。最近の

研究で、タシロランと共生している菌根 **菌として、ヒトヨタケ科のイヌセンボン** タケCoprinus disseminatus (Pers.:Fr.)

S.F.Gravが見つかっています。常緑樹林などの林床に生育し、6~7月 頃に高く茎を伸ばし開花します。茎も花もほぼ白色で、植物とは思えな い外観をしています。

写真の標本は、2011年に熊本市で採集されたもので、松橋収蔵庫の利 用者からいただいた情報によって生育を確認し、標本を残すことができ ました。県民一人ひとりの好奇心や疑問が、希少な植物の生育状況の確 認へと繋がったといえます。(前田哲弥)



平成26年度 熊本県松橋収蔵庫 第3回企画展

夏休みの自由研究はこれで決まり!

植物と遊ぼう



「植物」っていう言葉からあなたは何を想像しますか?学校へ行く道で見かけたタンポポやスミレ、4つ葉のクローバー。食卓に並んだお米、トマトやピーマンなどの野菜、おやつのポテトチップス。工作で使う木材など、いろんなものが頭の中に浮かんできますね。

植物と人間は大昔から仲の良いパートナーで、植物は私たちの生活を豊かにしてくれる、なくてはならない存在なのです。

今回の展示や体験学習では、植物を使った遊びを通して仲の良いパートナーである植物のことをもっと楽しく、深く学んでほしいと思っています。是非ご来館ください。

◇場所:熊本県松橋収蔵庫 期日:7月19日(土)から8月30日(土)

開館時間:10時から17時 休館日:日曜・祝日

キッズミュージアム7月19・20・21日開催

毎年、多くの子ども達で賑わっているキッズミュージアムを、今年も7月19日(土)~21日(月)の3日間松橋収蔵庫で開催します。

化石レプリカつくり・草木染め・葉脈標本つくり・貝でクラフトなど様々な体験を通して、自然や文化について楽しく遊びながら学べます。



場所:松橋収蔵庫

期日: 7月19日・20日・21日

時間:13時~16時30分

受付: 当日受付

午後0時30分~・午後2時30分~

各プログラムごと先着順

※雨天でも行います。駐車場あり(無料)

※体験内容によっては、100円~200円の材料費が必

要です。



熊本県

松橋収蔵庫

〒869-0524 熊本県宇城市松橋町豊福1695 TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302

メールアドレス

HPアドレス

http://www.pref.kumamoto.jp/site/shuuzouko/

shuuzouko kumamoto@yahoo.co.jp

最新号及びバックナンバーは、熊本県松橋収蔵庫のホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

編集·発行 熊本県松橋収蔵庫 宇城市松橋町豊福1695 Tel 0964-34-3301 2014年6月30日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.28

V0L. 8 – 1

新しい熊本タイプの博物館を目指して

熊本県では県民の皆様が身近な地域で博物館 活動に参加できるよう

「熊本県総合博物館ネットワーク」 の構築を進めます。





私たちの熊本は素晴らしい自然や文化遺産に恵まれています。松橋収蔵庫ではこれまでも熊本の自然や文化の価値を県民みんなで共有し、将来へわたって守り、



育むため県民 の皆様に参加 いただけるさ

まざまな博物館活動を展開して参りました 現在、熊本県では、県民の皆様方により身 近なところで博物館活動に参加・参画して いただくため、県内博物館や市町村と連携 して「熊本県総合博物館ネットワーク」の 構築を推し進めています。

あなたの町にも博物館が

松橋収蔵庫には、64万点の収蔵資料があります。その収蔵資料を基に松橋収蔵庫の展示室で企画展示を年に4回から5回行ってきました。博物館には興味があるけど遠いのでなかなか行く機会がない方々でも展示が見られるように、収蔵庫の過去の企画展を基にした移動展示を地域の博物館や展示場で行います。近くの自然系の博物館で、歴史・民俗系の展示が見たい、歴



史・民俗系の博物館で自然系の展示を見たい等の希望に基づき、各博物館や展示場と連絡を取り合い展示を計画しています。昨年度は、長洲町の金魚の館で「不思議な鉱物の世界」、各地の高校で「くまもとの外来生物」などを実施しました。

地域の自然や文化を知る機会に



熊本の自然や文化について学んでいく講座を、 県内各地で開催しています。本年度は、松橋収蔵 庫内で開催される講座以外にも、木原山を中心に した「シダ学講座」、清和村基幹集落センターで 開催される「熊本の祭り・行事・芸能」、芦北町 社会教育センターで開催される「暮らしの中の民 俗学」、天草ビジターセンターで開催される「天 草の地質」、松島総合センターアロマで開催され る「古文書入門講座」があります。

講座以外にも、フィールドミュージアムという

形で県内各地で自然を観察する企画も行っています。荒尾市で行う「シギ・チドリを観察 しよう」、八代市で行う「川原の石を観察しよう」、高森町で行う「阿蘇の草花を観察し よう」等のプログラムがあります。

詳しくは、松橋収蔵庫のホームページをご覧下さい。

県民参加型の博物館活動

松橋収蔵庫の展示や移動展示を見た方、講座よりもさらに詳しく学びたい方、自然や文 化の調査に興味がある方が主体的にグループを作り松橋収蔵庫のスタッフや仲間と共に活

動する松橋収蔵庫ミュージアムパートナーズク ラブがあります。

本年度は、「くまもとの大地の成り立ち」「阿蘇火山研究会」「地学研究会」「草木染めの会」「阿蘇文化調査研究会」「松橋地域史調査クラブ」「雁回山の植物を観る会」「南阿蘇植物の会」「貝類調べ隊」「交流支援クラブ」の10のクラブで活動しています。

興味をお持ちの方、一緒に活動しませんか。

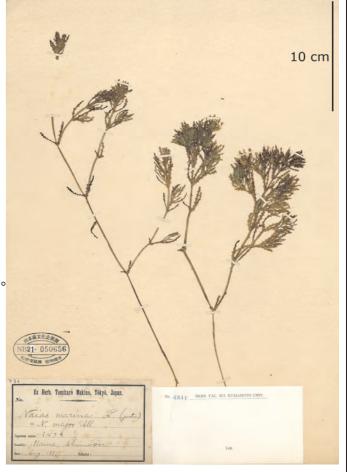


No. 148

イバラモNajas marina L. (イバラモ科)

牧野富太郎(1862--1957)は、現在の高知 県出身の植物学者です。幼い頃から植物が好 きで、独学で植物の研究を進めていました。 明治17 (1884) 年、22歳で上京し、東京大学 理学部植物学教室への出入りと標本の閲覧を 認められ、植物の研究を進めました。明治20 (1887) 年には、市川延次郎・染谷徳五郎と 共に「植物学雑誌」を創刊し、この雑誌の第 3巻第23号(1889年)では、大久保三郎との 共著で日本国内では初の新種記載となる、ヤ マトグサTheligonum japonicum Okubo et Makino(ヤマトグサ科)の発表を行いました。 また、当時はなかった日本の植物誌の刊行を 志し、様々な苦難にあいながらも「日本植物 志図篇」、「大日本植物志」、そして現在で も広く愛されている「牧野日本植物図鑑」を 記しました。牧野富太郎は明治期の日本植物 分類学の基礎を築いた重要な人物の一人であ り、「日本の植物学の父」と称されています。

写真の標本は、熊本大学から寄贈された植



標本

物標本に含まれていたものの一つです。そのラベルの表題に「Ex Herb. Tomitaro Makino, Tokyo, Japan.」とあります。 "Ex"はExsiccata(エキシカータ:研究者や研究機関が何らかのテーマでまとめた交換用や出版用の標本セット)の略と考えられ、 "Herb."はHerbarium(ハーバリウム:植物標本の集まり)の略です。おそらく牧野富太郎自身か、彼の監修のもとで作られたもので、熊本大学が交換や購入などで入手したと考えられます。エキシカータ標本は、分類や採集地が確かなので標本の比較検討の基準にでき、標本に基づく研究において重要な役割を果たす貴重なものです。松橋収蔵庫には、このような牧野富太郎の標本が321点収蔵されています。



標本の植物は、イバラモNajas marina L. (イバラモ科)という水中に沈んで生える水草で、1891年の8月に下総国で採集されたものです。その名のとおり葉の縁にはトゲ状の鋸歯があります。熊本県内では熊本市の江津湖での生育が確認されていますが、その他の情報が極めて少なく、「改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物ーレッドデータブックくまもと2009ー」では情報不足種(DD)に選定されています。(前田哲弥)

ラベル

清正公三百年祭関係資料(熊本市辛島家資料)

肥後国領主として熊本の藩政の基礎を築いた加藤清正は、江戸時代から現代まで「清正公さん」と親しまれてきました。一昨年の2012年は生誕(永禄5年(1562))から450年で記念イベントも行われましたが、本資料は、明治42年(1909)に、清正の没後(慶長16年(1611))300年遠忌にあたって行われた、清正公三百年祭に関する資料です。

この祭典を開催するにあたり、費用を募るために清正公三百年会が組織されました。当時の飽託郡長の美濃部盛行、熊本市長の辛島格らが中心となり会を組織し、寄附者が会員となりました。清正の菩提寺の本妙寺に事務所が置かれ、会の事業として祭典開催、本妙寺宝物館の建設、道路の改修、霊苑設置、水道修理、仏像彫刻などが計画されました。こ

の会の事務の監督を務めた辛島格が所持していた資 を松橋収蔵庫で収蔵しています。

祭典は、3月12日から4月30日の50日間にわたっ て、本妙寺での法要、宝物館で清正ゆかりの品の展 示、その他様々な行事が催されました。清正公三百 |年会誌(写真1)の統計によると、本妙寺への参詣 者数は約60万人、宝物館参観者は約10万人と計算さ れ、期間中は熊本市へ県内外から多くの観光客が訪 れて賑わいました。日誌(写真2)には、一日の行 事や法要の参列者数、宝物館の参観者数などが記録 されています。小学校の児童達が加藤家家紋の蛇首 桔梗の旗を持って隊列を組み清正公唱歌を歌いなが ら参拝へ向かう、旗行列なども行われました。また、 三百年祭の行事は東京でも行われ、寄附者への対応 や行事の準備について三百年会東京支部と熊本本部 とで書簡でやりとりをしています(写真3)。明治 時代におけるイベント開催の様子が分かる興味深い 資料です。

三百年祭の盛況ぶりから、明治時代から今日まで 続く清正人気の盛り上がりをうかがい知ることがで きます。(松本晃世)



写真 1 清正公三百年会誌





写真2 日誌



写真3 書簡



熊本県

松橋収蔵庫

〒869-0524 熊本県宇城市松橋町豊福1695 TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302

http://www.pref.kumamoto.jp/site/shuuzouko/

shuuzouko_kumamoto@yahoo.co.jp

最新号及びバックナンバーは、熊本県松橋収蔵庫のホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

編集・発行 熊本県松橋収蔵庫 宇城市松橋町豊福1695 TEL 0964-34-3301 2014 年 9 月 15 日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.29

VOL. 8-2

平成26年度第4回企画展示

すょっと昔のCらし探検 VI

昭和30年代後半から40年代にかけての高 度経済成長の下、機械化、電化が進み、ま た、プラスチックなどの化学製品の普及によ り、日本人の日々の暮らしは激変しました。

今回の展示では、ちょっと昔までは当たり前、でも今の子どもたちにとっては想像もできないような、暮らしと仕事の様子、道具などを紹介します。おじいちゃん、おばあちゃんから子どもまで、世代を超えて一緒に楽しんでいただけたら幸いです。

2014.09.10~11.29 10:00~17:00

日曜祝日閉館



籾干し 阿蘇郡南阿蘇村 1972 白石巌撮影

松橋収蔵庫「キッズミュージアム」大盛況でした

7月19日(土) 20日(日) 21日(月・海の日)に松橋収蔵庫で「キッズミュージアム」 を開催しました。松橋収蔵庫ミュージアムパートナーズクラブと松橋収蔵庫の共催で開かれ、交 流支援クラブやくまもとの大地の成り立ち、南阿蘇植物の会、松橋地域史調査クラブ、貝類調べ

隊、雁回山の植物を観る会など多くの会員が受付や子どもたちの活動の補助など行いました。

なかでも草木染めの会の方々は「柿渋のエコバック」「草木染めのハンカチ」作りを熱心に指導され、参加者の方々はすてきな作品を仕上げられていました。他のプログラムに参加された親子連れの方々も楽しそうな笑顔で取り組んでおられました。プログラム参加者は延べ345名でした。来年もよろしくお願いします。



貝で工作をしよう

ツクシテンツキ(カヤツリグサ科) podocarpa (Nees et Meyen) T.Koyama

Fimbristylis dichotoma (L.) Vahl subsp.

ツクシテンツキはカヤツリグサ科テンツキ属の植物です。テンツキという名は、天を突くよう に伸びる(天突き)とか、小さな花序が点々と付く(点付き)といった植物の姿に由来すると言 われています。水田や湿地などの水辺の環境でよく見られるテンツキのなかまですが、ツクシテ ンツキは温泉周辺のガスが吹き出す噴気孔の近くという、とても限られた、過酷な環境に生育し

ています。形態的には、黄白色で格子状の模様があり種子をつけ、 小穂の長さが1~1.5cmほどあるなどの特徴があります。改訂・能 本県の保護上重要な野生動植物ーレッドデータブック2009ーでは準 絶滅危惧(NT)、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧II類 (VU) に選定されています。

写真の標本は、熊本県の阿蘇において1915年10月14日に採集され たものです。左上に「シマテンツキ」とありますが、シマテンツキ は海岸に生育し、黒褐色で表面が滑らかな果実をつける植物です。 ツクシテンツキはこの標本が採集されてから約16年後の1931年に日 本で初めて報告された植物で、採集当時はまだ知られていませんで した。採集後の比較検討によって、これがツクシテンツキである事 が分かりました。収蔵庫の標本は多くの人の検討を受けて新しい情 報が付け足され、資料の価値を高められていきます。(前田哲弥)



ツクシテンツキの標本

No. 150

メタセコイア Metasequoia sp.

メタセコイアは、公園などに植えられよく見かける木です。しかし、かつてはその存在が知ら れていませんでした。メタセコイアの属名は、1941年に化石に基づいて名前が付けられ絶滅した 植物であると考えられていました。ところが、1945年に当時の中国四川省で現生種が発見され、 「生きている植物化石」として知られるようになりました。

メタセコイアの仲間は、中生代白亜紀(約1億4500万~6550万年前)に出現し、新生代古第三 紀(約6550万~2300万年前)には、日本を含め、北半球に広く分布していました。日本では、新 生代新第三紀(約2300万~260万年前)までは普通にある植物でしたが、約100万年前に消滅しま した。

メタセコイアの化石は、熊本県内からも産出します。写真1は天草市五和町の約300万年前の 地層より産出したメタセコイアの葉の化石です。葉が扁平な線形をしており、2枚が向かい合っ

て付いているのがわかります。写真2は人吉市下原田町の約300万年前の地 層より産出したメタセコイアの実の化石です。化石として残っているのは一 部分だけですが、現生の実とよく似ています。

これらの化石から、メ タセコイアは姿、形を変 えることなく現在まで残 っており、かつては熊本 にも分布していたことが わかります。(廣田志乃)



街角で見られるメタセコイ

No. 151

曲尺と鯨尺



① 曲尺 合志市竹迫 135×475m ② 鯨尺 熊本市大江 21×380mm

写真①は、大工が使っていた物差で曲尺といいま す。L字型の真鍮の板の裏表に目盛りが刻まれていま す。表面には一分(約3mm)ごとの目盛りが刻まれ ています。裏面の目盛りは摩耗していてよく見えま せんが、表の目盛りを√2倍した目盛りや、円周率で 割った目盛りが刻まれているものもあります。この 曲尺の形状と目盛りの寸法は、 1300年以上前に中 国から伝わったものとほとんど変わらないのだそう です。

写真②は着物の仕立てに使われていた竹の物差で 鯨尺といいます。最初、鯨のひげで作られていたこ とからこの名があります。一分(約3.8mm)ごとに

目盛りがあります。この鯨尺には横にメートル法の目盛りもついています。

分と尺は昔の長さの単位です。一分の100倍が1尺です。曲尺の1尺は約30cm、鯨尺は約38cm となり、同じ一尺でもずいぶん長さが違うことがわかります。実は、江戸時代以前には、地域や 仕事などにより、1尺の長さの異なる様々な物差が使われていました。明治時代になり、1尺は 33分の10m(約30.3cm)と定められましたが、裁縫では、鯨尺が使い続けられていました。(迫 田久美子)

シマヘビ(ヘビ科、Elaphe quadrivirgata)の脱皮殻

ヘビは動きが速く、毒を持っている種類もいるため、生きたままじ 調 っくりと観察するのが難しい生き物です。そんなヘビが残していく脱 皮殻は、安全で扱いやすく、ヘビの体のつくりを観察するのに最適な 資料となります。

ヘビは体全体が鱗でおおわれており、抜け殻には鱗の模様がそのま ま鮮明に残ります。ヘビの鱗は背側と腹側で形が異なっており、腹側 にある横長の鱗を腹板、胴体を取り巻く小さな鱗のことを体鱗と呼び ます。体鱗は列になって規則正しく並んでおり、この鱗の列の数(体 **鱗列数)が種によって異なるため、この数を数えてヘビを同定するこ** とができます。数える場所はヘビの胴体の中央部付近で、胴体を斜め

に一周するように数えていきます(写真2)。体鱗数に加え、腹板の数も 種によってだいたい決まっています。写真の脱皮殻は全長132cm、体鱗列数 は19列、腹板195枚であったため、シマヘビと同定されます。このように、

脱皮殻からヘビの種類を見分けることができる ため、脱皮殻を採集することはヘビの野外調査 において有効な手段のひとつとなります。

写真の脱皮殻は、2011年6月に熊本市富合町に て博物館ボランティアの方が採取されたものです。頭から尾まできれ いに残っている、たいへん状態の良い資料です。(小原舞)



写真1 シマヘビの脱皮殻



ニホンジカ(亜種キュウシュウジカ*Cervus Nippon Nippon*)の角 シカ科

ニホンジカは日本を含む東アジアに広く生息しています。 雄は枝分かれした大きな角を持っていますが、雌にはありま せん。写真1は立派な角を持った雄のニホンジカです。

角は毎年生えかわるため、古い角が山道に落ちていることがあります。写真2の角は、2014年3月に宇城市豊野町の水晶山で拾われたものです。ニホンジカの角は、1歳ではまっすぐ、2~3歳になると1本2本と枝分かれしたものが生えるようになります。そして、4歳から5歳以降は毎年4本の枝をもつ立派な角が生えるようになります。写真2の角は4本に共分かれしているため、この名の持ちさの年齢は4~5



『真1 下益城郡美里町

本に枝分かれしているため、この角の持ち主の年齢は4~5歳以上だと考えられます。

角は春に抜け落ち、初夏から新しい角が伸び始め、秋には完成します。完成したばかりの角の表面は古い皮に覆われています。その皮を剥がしたり、角の尖端を研ぐために、ニホンジカは木の幹に角をこすりつけます。固い角を何度もこすりつけるため、木の幹には写真3のように研ぎ跡がくっきりと残ります。

古い角や、角を研いだ痕などは、ニホンジカがその場所に来たという確かな証拠になります。これらの生き物が残した痕跡はフィールドサインと呼ばれ、野生生物の調査などにおいて重要な情報となります。(小原舞)





写真 2

.. . _

熊本県

松橋収蔵庫

〒869-0524 熊本県宇城市松橋町豊福1695 TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302

メールアドレス

HPアドレス

http://www.pref.kumamoto.jp/site/shuuzouko/

shuuzouko_kumamoto@yahoo.co.jp

最新号及びバックナンバーは、熊本県松橋収蔵庫のホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

編集・発行 熊本県松橋収蔵庫 宇城市松橋町豊福1695 TEL 0964-34-3301 2014 年 12 月 15 日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.30

VOL. 8-3

平成26年度 第5回企画展示

救護看護婦竹田ハツメ

平成26年(2014)は、史上初の世界大戦である 第一次世界大戦から100年に当たる年でした。

この大戦では、多数の近代兵器が初めて導入され、死傷者もかつてない数となりました。

日本からも日本赤十字社による救護班が派遣され、その中の仏国派遣救護班の一員として、 熊本から竹田ハツメが派遣されています。

今回の展示では、松橋収蔵庫が所蔵している 竹田ハツメが遺した資料をもとに、フランスで 称賛された救護班の足跡をたどります。

NHK「歴史秘話ヒストリア」でも紹介された 数々の資料をぜひ間近でご覧ください。

会 期 平成26年12月15日~平成27年2月28日

時 間 午前10時~午後5時

休館日 日曜祝日、12月27日~1月4日

入館料 無料



「フィールドミュージアムへ飛びだそう!」大盛況でした

6月1日(日)の「ヒメボタルを観察しよう」から始まった今年の「フィールドミュージアムへ飛びだそう!」も、11月29日(土)の「落ち葉図鑑を作ろう」を持って全10プログラムが終了しました。今年は夏場の天候不順もあり天体観察のプログラムでは、十分な観察会ができ

ませんでしたが、県民天文台長のお話や天体望遠鏡を用いた写真の 撮り方などの講習会もあり充実した時間を過ごすことができました。 海辺の生き物観察会では、講師の矢田さん、松本さんが、参加者に 様々な海辺の生き物について実物を見ながら観察のアドバイスをし てくれました。生きたタカラガイを見つけた参加者もいました。

来年度も、楽しいプログラムを準備いたしますのでふるってご 参加ください。



シギ・チドリを観察しよう

熊本県では「熊本県総合博物館ネットワーク」の構築に 取り組んでいます

私たちの住む熊本は、すばらしい自然や文化遺産に恵まれています。

この宝を次世代に継承していくため、熊本県では県内の博物館、資料館、市町村等が連携して、県民の皆さんの身近な地域で様々な博物館活動を実施する「熊本県総合博物館ネットワーク」の構築を進めています。



この史料は、第一次世界大戦時にフランスのパリで活動した日本赤十字社仏国派遣救護班の様子を伝える絵葉書で、仏国派遣救護班看護婦として活躍した竹田ハツメによって伝えられました。

仏国派遣救護班は、医師・看護婦・薬剤師など総勢31名で構成し、フランス赤十字社の救護業務を援助する事を目的に派遣されました。そして大正4年(1915)の診療開始から大正5年

(1916) の診療終了まで延べ5万4832 人を治療しています。日本赤十字社からは、他にもイギリスやロシアに対し て派遣され、英国派遣救護班、露国派 遣救護班として活動しました。

この史料には日本赤十字社救護病院の全景、開院式、手術中の様子、エックス線室、包帯材料庫、病室として使用していた大広間など21枚の絵葉書があり、仏国派遣救護班の活動の様子を知る事ができる貴重な資料となっています。(堤将太)



(絵葉書) フランス出発前に東京の日本赤十字本社前玄関にて撮影の写直を利用

No. 155 植物

キイセンニンソウ Clematis uncinata var. ovatifolia (キンポウゲ科)

秋になると、野山では白い綿毛をもった種子をつけたつる植物が目立つようになります。キンポウゲ科のセンニンソウ属の仲間です。熊本県の低山地ではセンニンソウやボタンヅルをよく見かけます。写真の標本は、センニンソウ属の一種キイセンニンソウです。

キイセンニンソウの分布は、熊本県と紀伊半島南部に限られています。和名の「キイ(紀伊)」は紀伊半島のことを指しています。熊本県における生育は水俣市でのみ確認されており、

「熊本県の保護上重要な野生動植物-レッドリストくまもと 2014-1では、絶滅危惧IA類(CR)に選定されています。

この標本は、1913年に和歌山県で採集されたものです。採集者の宇井縫蔵は、和歌山県で教鞭を執りつつ、植物、魚類、郷土史の研究を進めた人物で、「紀州植物誌」などの著書があります。また、南方熊楠の植物研究における協力者でもありました。この標本は、寄贈あるいは標本交換を経て熊本大学へ納められたと推察され、現在は松橋収蔵庫に収蔵されています。

標本の寄贈や交換は、収蔵庫の資料を充実させるための重要な手段の一つで、地方では入手しがたい遠方の標本を収蔵し、調査研究への利用が可能になります。また、標本の交換によって等価の標本を複数の収蔵施設に分散して収蔵するこは、施設の被災による資料の滅失に対する保険にもなります。(前田哲弥)



キイセンニンソウの標本

No. 156

クロム鉄鉱と灰クロム右榴石 chromite, uvarovite

クロムは、耐食性・耐火性が強いのでメッキに使われたり、鉄・ニッケルとの合金であるステンレス鋼、ニッケルとの合金であるニクロム線が身近なものに広く利用されたりと、とても有用なレアメタルです。このクロムが含まれる主な鉱石の一つとして、クロム鉄鉱があります。

クロム鉄鉱は、マントル近くでできた岩石より産出し、 クロムを含む鉱物(灰クロム石榴石、灰クロム透輝石、含 クロム緑が石など)を伴うことがよくあります。写真1の 標本は蛇紋岩で、この中にクロム鉄鉱と灰クロム石榴石が 含まれます。これは、八代市でかつて採掘されていた猫谷 鉱山(クロム鉱山)の近くで採取されたものです。

写真2の黒色に見えるのがクロム鉄鉱(A)です。その近くに非常に細かな濃い緑色の粒の集まり(B)があります。これが灰クロム石榴石で、ここでは結晶の形があまりはっきりとしていません。灰クロム石榴石は、クロム鉱石として利用されることはなく、大きな結晶は宝石として利用されます。残念ながら、猫谷鉱山近くから産出するものは結晶がはっきりしないものや、小さな結晶のものが多く、宝石として使われたものはないようです。(廣田志乃)



写真1 クロム鉱石を含む蛇紋岩

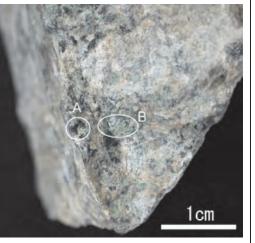


写真2 クロム鉱石近接撮影

斗枡は一斗(約18以)を量る用具です。写真の斗枡はどちらも、主に穀物の計量に使われていました。

かつての斗枡は正方形で、側板の上部二面を左右違いにのばした持ち手がついています(写真1)。正確に量るために、内寸が縦横10.5寸(約31.8cm)、深さ5.88寸(約17.8cm)と定められていましたが、現実には精度は安定しませんでした。

大正時代頃から丸い桶型のものが正規の計量具として使われるようになりました。これは竹たがを用いずに口縁と底縁を金属輪で締めて固定し、左右に持ち手がついています(写真2)。

斗枡で穀物を量るとき、多めに盛って上の余分な盛り上がりを、斗棒という樫や桐で作られた丸い棒で、掻き均しました(写真3)。かつてはこの棒の操作次第で穀物の容量に増減がみられ、売り手買い手それぞれの腕の見せ所だったといいます。ま

た熊本県内では、 男性の米寿祝を トボウイワイを いい、斗棒を といて 親類で に配る 風で りました。

(迫田久美子)



写真 1 イットマス 明治期 山鹿市鹿北町 内寸32.4×32.0×17.3cm ※写真名称は、現地呼称



写真2 トマス 昭和30年代まで 熊本市北区植木町 内寸28.4×28.4×28.3cm



写真3トボ 明治33年 阿蘇市 5.8×5.8×43cm